

1. 法人企業統計季報（平成28年1～3月期）の概況

平成28年1～3月期における資本金1,000万円以上の法人企業の動向を「四半期別法人企業統計調査」結果からみると、以下のとおりである。

前年同期比でみると、売上高については、製造業、非製造業ともに減収となった。経常利益については、製造業、非製造業ともに減益となった。また、設備投資については、製造業、非製造業ともに増加となった。

1. 収益の動向

(1) 売上高・営業利益・経常利益

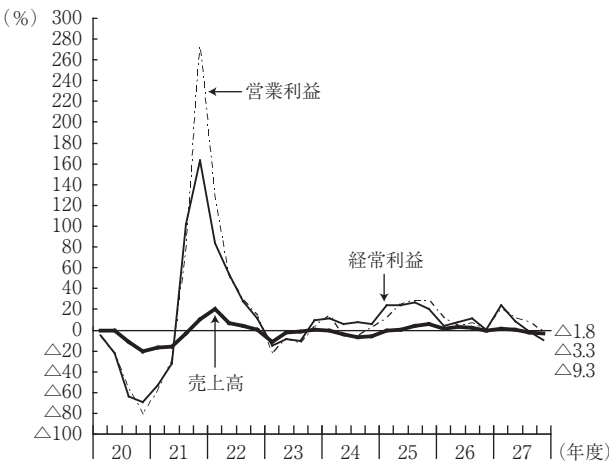
全産業の売上高は332兆874億円で、前年同期（343兆5,978億円）を11兆5,104億円下回り、対前年同期増加率（以下「増加率」という）は△3.3%（前期△2.7%）となった。

全産業の営業利益は15兆2,441億円で、前年同期（15兆5,216億円）を2,775億円下回り、増加率は△1.8%（同7.8%）となった。

全産業の経常利益は15兆8,997億円で、前年同期（17兆5,321億円）を1兆6,324億円下回り、増加率は△9.3%（同△1.7%）となった。

また、全産業（金融業、保険業を含む）の経常利益は18兆3,081億円で、前年同期（20兆5,173億円）を2兆2,092億円下回り、増加率は△10.8%となった。金融業、保険業の経常利益は2兆4,083億円で、前年同期（2兆9,852億円）を5,769億円下回り、増加率は△19.3%となった。

第1図 売上高・営業利益・経常利益増加率（全産業）



第1表 売上高・営業利益・経常利益の推移  
(対前年同期増加率) (%)

区 分		平成 27 1～3	4～6	7～9	10～12	平成 28 1～3
売上高	全 産 業	△ 0.5	1.1	0.1	△ 2.7	△ 3.3
	製 造 業	△ 3.9	1.2	△ 0.0	△ 1.4	△ 2.2
	非 製 造 業	0.9	1.1	0.1	△ 3.2	△ 3.8
営業利益	全 産 業	△ 0.1	20.5	11.2	7.8	△ 1.8
	製 造 業	△ 7.8	23.4	9.7	△ 7.7	△ 15.6
	非 製 造 業	3.2	19.4	12.0	16.5	3.5
経常利益	全 産 業	0.4	23.8	9.0	△ 1.7	△ 9.3
	製 造 業	△ 1.3	29.6	△ 0.7	△ 21.2	△ 20.4
	非 製 造 業	1.2	20.8	15.2	12.7	△ 4.5
全 産 業 (金融業、保険業を含む)		3.3	21.6	2.6	△ 2.5	△ 10.8
金 融 業、保 険 業		23.8	11.5	△ 21.2	△ 6.7	△ 19.3

第2表 季節調整済前期比増加率 (%)

区 分		平成 27 1～3	4～6	7～9	10～12	平成 28 1～3
売上高	全 産 業	△ 0.4	△ 0.4	△ 0.1	△ 1.8	△ 1.0
	製 造 業	△ 0.4	△ 0.0	△ 0.3	△ 1.0	△ 0.9
	非 製 造 業	△ 0.4	△ 0.6	△ 0.0	△ 2.2	△ 1.0
経常利益	全 産 業	△ 1.1	9.5	△ 6.9	△ 3.3	△ 6.8
	製 造 業	△ 16.7	18.1	△ 8.5	△ 16.1	△ 8.0
	非 製 造 業	9.1	5.2	△ 6.0	3.8	△ 6.2

(2) 利益率

全産業の売上高営業利益率は4.6%（前期4.7%）となり、売上高経常利益率は4.8%（同5.4%）となった。

第3表 利益率の推移 (%)

区 分		平成 27 1～3	4～6	7～9	10～12	平成 28 1～3
売上高営業利益率	全 産 業	4.5	4.8	4.0	4.7	4.6
	製 造 業	4.3	4.6	4.5	4.8	3.8
	非 製 造 業	4.6	4.9	3.8	4.7	4.9
売上高経常利益率	全 産 業	5.1	6.4	4.6	5.4	4.8
	製 造 業	5.4	7.7	5.5	6.1	4.4
	非 製 造 業	5.0	5.8	4.3	5.1	5.0

2. 投資の動向

(1) 設備投資

全産業の設備投資額は13兆6,805億円で、増加率は4.2%（前期8.5%）となった。

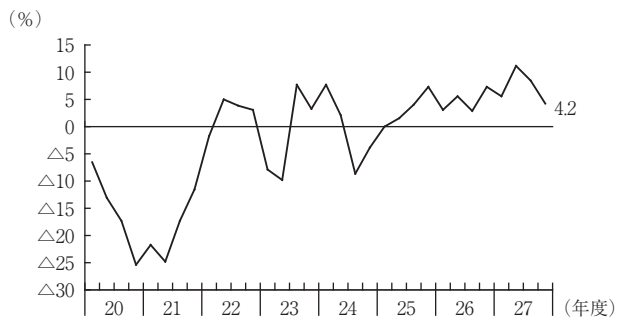
全産業のソフトウェア投資額は1兆1,701億円で、増加率は2.7%（同3.9%）となり、ソフトウェア投資額を除いた設備投資額は12兆5,104億円で、増加率は4.3%（同8.9%）となった。

また、全産業（金融業、保険業を含む）の設備投資額は14兆4,479億円で、増加率は4.1%となり、金融業、保険業の設備投資額は7,673億円で、増加率は1.6%となった。

全産業（金融業、保険業を含む）のソフトウェア投資額は1兆5,928億円で、増加率は5.1%となり、ソフトウェア投資額を除いた設備投資額は12兆8,551億円で、増加率は3.9%となった。

金融業、保険業のソフトウェア投資額は4,227億円で、増加率は12.3%となり、ソフトウェア投資額を除いた設備投資額は3,447億円で、増加率は△9.0%となった。

第2図 設備投資増加率（全産業）



(注) 平成14年7～9月期以降ソフトウェア投資額を含む。

第4表 設備投資の推移(対前年同期増加率) (%)

区分	平成27 1～3	4～6	7～9	10～12	平成28 1～3
全産業	7.3 (8.1)	5.6 (6.6)	11.2 (11.2)	8.5 (8.9)	4.2 (4.3)
製造業	6.4 (6.8)	11.6 (13.2)	12.6 (13.3)	10.2 (11.0)	6.7 (8.2)
非製造業	7.8 (8.7)	2.6 (3.4)	10.4 (10.0)	7.6 (7.8)	2.9 (2.4)
全産業 (金融業、保険業を含む)	5.3 (6.0)	6.6 (7.2)	11.0 (10.9)	8.4 (8.8)	4.1 (3.9)
金融業、保険業	△21.1 (△34.4)	26.9 (28.4)	8.6 (1.1)	8.0 (4.5)	1.6 (△9.0)

(注) ( ) 書きはソフトウェア投資額を除いたものである。

第5表 季節調整済前期比増加率 (%)

区分	平成27 1～3	4～6	7～9	10～12	平成28 1～3
全産業	6.2	△2.7	5.7	△0.1	1.4
製造業	3.9	△1.3	8.5	△0.1	1.2
非製造業	7.5	△3.4	4.2	△0.0	1.5

(注) ソフトウェア投資額を除く。

(参考)

「リース取引に関する会計基準」の改正(注)以前は、ファイナンス・リースにおけるリース物件については、貸し手側では固定資産として計上され、借り手側ではオフバランス処理されることが多かったが、同基準の改正により、貸し手側では流動資産に計上され、借り手側では固定資産に計上されることとなった。

法人企業統計調査では、有形固定資産及びソフトウェアの新設額を設備投資として扱っているため、設備投資の計数には、上記会計基準の改正も影響していると考えられる。よって、全産業から貸し手側であるリース業を除いた計数を参考表1として示す。

(参考表1) 設備投資の推移 (億円、%)

区分	平成27 1～3	増加率	4～6	増加率	7～9	増加率	10～12	増加率	平成28 1～3	増加率
全産業 (リース業を除く)	127,506	7.5	87,726	5.4	101,248	10.4	101,892	8.2	133,306	4.5
非製造業 (リース業を除く)	83,750	8.0	56,148	2.2	62,478	9.1	65,266	7.1	86,603	3.4
リース業	3,788	3.7	2,659	12.8	3,689	37.5	3,410	17.6	3,499	△7.6
資本金別 (リース業を除く)										
10億円以上	74,753	4.5	46,828	2.5	54,155	6.6	55,370	3.0	79,894	6.9
1億円～10億円	21,258	11.2	14,721	7.0	16,824	3.6	18,130	10.4	21,003	△1.2
1,000万円～1億円	31,496	12.4	26,177	9.9	30,270	22.7	28,392	18.3	32,409	2.9

(注) 1. 設備投資とは、有形固定資産(土地の購入費を除き、整地費・造成費を含む)及びソフトウェアの新設額である。  
2. 増加率は対前年同期増加率である。  
3. 全産業及び非製造業には金融業、保険業は含まれていない。

今回調査においては、固定資産が増加した法人に対して、上記会計基準の適用状況について調査を行った。調査結果は参考表2のとおりである。

(参考表2) 「リース取引に関する会計基準」の適用状況表(社)

区分	母集団法人数	固定資産の増加額あり		固定資産の増加額なし
		適用した	適用していない	
全産業	1,008,083	26,620	265,159	716,304
製造業	171,489	6,364	61,547	103,578
非製造業	836,594	20,256	203,612	612,726
資本金別				
10億円以上	5,080	1,912	2,876	292
1億円～10億円	24,888	3,697	14,709	6,482
1,000万円～1億円	978,115	21,011	247,574	709,530

(注) 1. 本調査期において、固定資産の増加額を記入した法人に、その増加額がリース取引に関する会計基準の適用によるものかを調査したものである。  
2. 全産業及び非製造業には金融業、保険業は含まれていない。

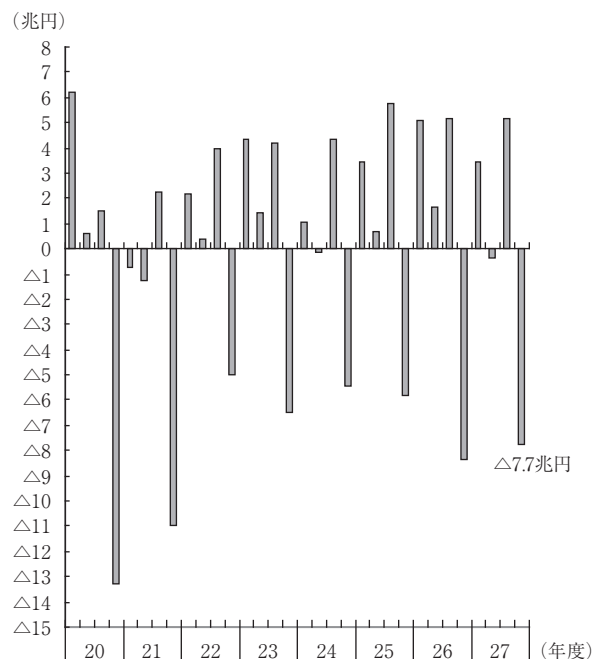
(注) 1. 改正後(新)「リース取引に関する会計基準」の適用時期は、平成20年4月1日以後開始する事業年度より適用。ただし、平成19年4月1日以後開始する事業年度から適用することができる。  
2. 上記にかかわらず、四半期財務諸表に関しては、平成21年4月1日以後開始する事業年度より適用。ただし、平成20年4月1日以後開始する事業年度から適用することができる。

## (2) 在庫投資

全産業の在庫投資額は△7兆7,497億円(前年同期△8兆3,875億円)となった。

全産業の在庫率は8.4%(同8.1%)となった。

第3図 在庫投資(全産業)



第6表 在庫投資と在庫率の推移 (億円、%)

区分	平成27 1～3	4～6	7～9	10～12	平成28 1～3
全産業	△83,875	34,305	△3,815	51,615	△77,497
製品・商品	△22,184	7,862	△2,362	20,794	△21,509
仕掛品	△53,511	20,345	2,628	32,091	△47,388
原材料	△8,180	6,098	△4,081	△1,270	△8,599
製造業	△22,648	20,911	△3,221	583	△28,015
非製造業	△61,228	13,394	△594	51,032	△49,481
在庫率	8.1	9.0	8.6	8.9	8.4

(注) 在庫率 =  $\frac{\text{棚卸資産(期末)}}{\text{売上高}} \times 100$